

感染性胃腸炎の流行に備えましょう!



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 3	1	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	→ 38	38	ヘルパンギーナ	↘ 4	6
咽頭結膜熱	↘ 22	27	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 54	64
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘ 74	92	急性出血性結膜炎	↘ 0	1
感染性胃腸炎	↘ 492	544	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 40	38
水痘	→ 9	9	細菌性髄膜炎	↘ 0	1
手足口病	↗ 21	12	無菌性髄膜炎	→ 1	1
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 59	78	マイコプラズマ肺炎	↘ 6	9
突発性発しん	↘ 31	40	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↘ 1	2

報告が多い感染症  
 感染性胃腸炎  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎  
 伝染性紅斑

大きな流行が発生又は継続しつつある地域  
 感染性胃腸炎 : 菊池  
 伝染性紅斑 : 菊池、山鹿、天草、熊本市  
 流行性角結膜炎 : 熊本市

保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所	3	14	7	31	68	4	3	22	10			11		34		1	4		1
山鹿保健所		1			38	1	4	5	2			5	*	*		0	0		
菊池保健所		14	6	14	105	3	14	13	7		1	11		1		0	0		
阿蘇保健所					4								*	*		0	0		
御船保健所				2	28			2					*	*		0	0		
八代保健所				6	44			2	2			1		1		0	0		
水俣保健所		4		2	25			1	1			1	*	*		0	1		
人吉保健所		1			21			1				3	*	*		0	0		
有明保健所		2	6	5	85			5	3			11		4		0	1		
宇城保健所		2	3	2	28	1		1	3		1	11	*	*		0	0		
天草保健所				12	46			7	3		2					0	0		
計	3	38	22	74	492	9	21	59	31	0	4	54	0	40	0	1	6	0	1

年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	38	6	9	15	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	22	0	2	6	7	2	1	4	0	0	0	0	0	0	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	0	0	2	1	1	12	13	10	7	9	6	9	2	2						
感染性胃腸炎	492	5	37	75	42	49	47	38	42	27	20	15	53	11	31						
水痘	9	1	0	2	2	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0						
手足口病	21	0	4	11	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0						
伝染性紅斑	59	0	0	2	2	9	9	9	8	11	3	3	2	0	1						
突発性発しん	31	0	14	12	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0						
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	4	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎	54	0	1	3	6	7	10	11	3	9	1	2	1	0	0						
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	40	0	0	2	4	1	2	3	3	1	1	0	0	1	7	5	8	0	2	0	0
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
無菌性髄膜炎	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
マイコプラズマ肺炎	6	1	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

感染性胃腸炎の流行に備えましょう  
 ~ノロウイルスにご注意を~



冬場に流行する感染性胃腸炎の原因の多くは、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものです。特にノロウイルスは感染力が強く、少量でも発症するのが特徴です。ノロウイルスによる感染性胃腸炎はヒトからヒトへの感染と、汚染した食品を介しておこる食中毒に分けられます。感染から発症までの期間は24~48時間で、主な症状は吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、微熱です。通常、これらの症状が1~2日間続いた後に治癒しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化することがありますので、特に注意が必要です。ノロウイルスについてはワクチンがなく、治療も対症療法に限られますので、右の予防対策を徹底しましょう。

- ①最も大切なことは丁寧に手を洗うことです。  
特に食事前、トイレの後、調理前後は、石けんで丁寧に手を洗いましょう。石けん自体にはノロウイルスを直接失活化する効果はありませんが、手の汚れを落とすことにより、ウイルスを手指から剥がれやすくする効果があります。アルコール消毒は、風邪やインフルエンザなどの予防には効果的ですが、ノロウイルスにはあまり効果がないといわれています。
- ②便や嘔吐物を処理するときには、衛生面に注意しましょう。  
感染した人の便や吐物には大量のノロウイルスが含まれています。これらを取り扱うときは使い捨て手袋、エプロン、マスクを着用し、衛生面に十分に注意しましょう。
- ③食品からの感染を防ぎましょう。  
一般にウイルスは熱に強く、加熱処理はウイルスの活性を失わせる有効な手段です。ノロウイルスの汚染のおそれのある二枚貝などの食品の場合は、85~90℃以上で90秒以上の加熱が望ましいとされています。また、調理器具や調理台はいつも清潔に保ちましょう。